

三瀧・犬塚・西牟田校区文化財マップ

大川鉄道

明治45年(1912)から昭和41年(1966)まで運行していた路線です。三瀧小学校の北側には当時使用していた汽車が今も残っています。(表紙写真)

文明の板碑



文明18年(1486)に建立されました。正月十九日死去と記されており、もとは墓碑であったと思われます。

壱町原天満宮の鶯像



壱町原天満宮の境内には鶯替え神事の鶯の石像があります。

旧三井寺ポンプ場及び変電所



大正2年(1913)に完成した電力による揚水施設です。中にポンプ機が設置され、標高の高い農地へも配水が行われ、広い範囲に水を供給していました。レンガ積みの建物は昭和8年(1933)に建築されたものです。

20 裏畑古墳



元の形は不明ですが墳丘の径は10mほど残っています。板石が一枚露出しており、石棺の一部の可能性が有ります。発掘調査は行われていません。

柳川往還

田中吉政が慶長7年(1602)に整備した久留米城と柳川城を結ぶ道路です。現在の県道23号久留米柳川線の元となる道です。

栗山地蔵板碑

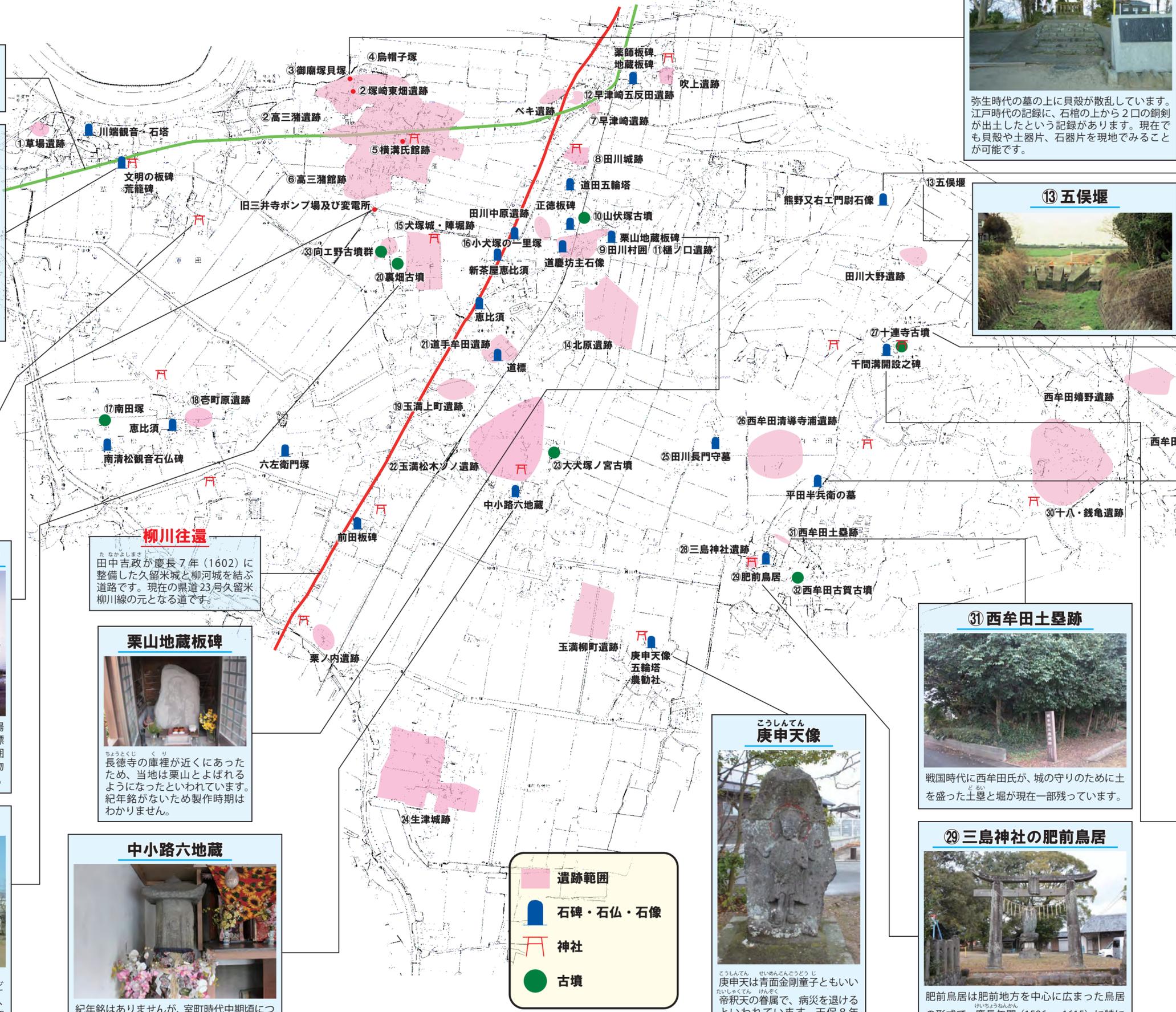


長徳寺の庫裡が近くにあったため、当地は栗山とよばれるようになったといわれています。紀年銘がないため製作時期はわかりません。

中小路六地藏



紀年銘はありませんが、室町時代中期頃につくられたといわれています。この地藏塔の形式は筑後地方では珍しいものです。



3 御廟塚貝塚



弥生時代の墓の上に貝殻が散乱しています。江戸時代の記録に、石棺の上から2口の銅剣が出土したという記録があります。現在でも貝殻や土器片、石器片を現地で見ることが可能です。

熊野又右工門尉石像



熊野又右工門尉は、田川村の地頭、また田川城主田川長門守の末裔であるという言い伝えがあります。県道759号壱町原白線沿いの墓地から移転しています。

13 五侯堰



西暦500年前後の築造といわれています。現存で高さ5m、径30m前後の円墳です。採集された石材の一部から、石室内部が朱塗りであったことが確認されています。

27 十連寺古墳



西暦500年前後の築造といわれています。現存で高さ5m、径30m前後の円墳です。採集された石材の一部から、石室内部が朱塗りであったことが確認されています。

平田半兵衛の墓



元禄年間に平田半兵衛が私財を投じて、広川の水を西牟田村に導水するため広川町五の江堰を築き、西牟田村まで長い溝を掘りました。溝から引いた水を多くの溜池に溜めて干ばつを防ぎ、稲作を行ってきました。五侯堰で犬塚、小犬塚、田川、高三瀧、早津崎の5方向に向かう灌漑溝に分かれ、三瀧の広い範囲に導水されています。

31 西牟田土塁跡



戦国時代に西牟田氏が、城の守りのために土を盛った土塁と堀が現在一部残っています。

29 三島神社の肥前鳥居



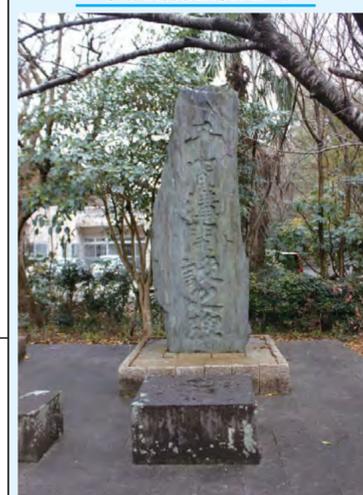
肥前鳥居は肥前地方を中心に広まった鳥居の形式で、慶長年間(1596~1615)に特に造営が盛んでした。左右の上部が丸みを帯び、大きく反りかえっていることが特徴です。

庚申天像



庚申天は青面金剛童子ともいわれています。帝釈天の眷属で、病災を退けるといわれています。天保8年(1837)に深堀孟辰氏が建立しました。

千間溝開設之碑



元禄年間に平田半兵衛が私財を投じて、広川の水を西牟田村に導水するため広川町五の江堰を築き、西牟田村まで長い溝を掘りました。溝から引いた水を多くの溜池に溜めて干ばつを防ぎ、稲作を行ってきました。五侯堰で犬塚、小犬塚、田川、高三瀧、早津崎の5方向に向かう灌漑溝に分かれ、三瀧の広い範囲に導水されています。